

答え合わせ・解説

問1	答え 1 関所	織田信長は、経済を活性化させ、軍事物資や情報の移動をスムーズにするために、交通の障害となっていた関所を撤廃しました。これにより、それまで課されていた通行税の負担がなくなり、商人が自由に移動できるようになったため、物流が大きく促進されました。
問2	答え 1 イエズス会の宣教師であるフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、キリスト教を伝えた。	1549年、イエズス会の創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルが鹿児島に来航しました。当時の日本は戦国時代で、ポルトガル人との貿易によってもたらされる鉄砲やその他の物産とともに、新しい宗教であるキリスト教が広まりました。これはヨーロッパにおける宗教改革に対抗し、世界各地にカトリックを広めようとしたイエズス会の戦略の一環でした。
問3	答え 1 有田焼。朝鮮出兵の際に大名たちが優れた技術を持つ陶工を連れ帰ったことで、佐賀県を中心に磁器の生産が始まった。	豊臣秀吉による2度の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の際、出兵した大名たちが朝鮮から多くの陶工を日本へ連れて帰りました。これにより、佐賀県の有田（当時の鍋島藩）において、それまでの日本にはなかった「磁器」の生産が始まりました。このことから朝鮮出兵は「焼き物戦争」とも呼ばれることがあります。有田焼は近くの伊万里港から積み出されたため、伊万里焼とも呼ばれます。
問4	答え 1 天下統一	織田信長は、足利義昭を追放して室町幕府を実質的に滅亡させた後、天下統一を目指して勢力を拡大しました。その象徴として築かれた安土城は、高い天守を持つ新しい形式の城であり、権威を示す政治的な役割も担っていました。
問5	答え 1 派手な装飾を避け、質素な空間の中で精神的な深みを追求する作法	千利休は、それまでの富や権力を誇示するような華美な茶の湯に対し、質素さや静寂を重んじる「わび茶」を完成させました。茶室という狭く簡素な空間で主客が心を通わせることを重視し、日本独自の美意識を形成しました。豊臣秀吉による「黄金の茶室」のような豪華絢爛な文化とは対照的な、精神性を重視した側面が「わび茶」の本質です。
問6	答え 1 バスコ・ダ・ガマがインド航路を開拓したことで、アジアへの航路が確保され、後にフランシスコ・ザビエルが来日してキリスト教を伝えた。	1498年にポルトガルのバスコ・ダ・ガマが喜望峰を經由してインド航路を開拓したことにより、ヨーロッパ人のアジア進出が本格化しました。その流れの中で、1549年にイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島に来航し、日本にキリスト教が伝わりました。出来事の前後関係として、航路の開拓が布教活動の前提となっている点が重要です。
問7	答え 1 古墳時代に朝鮮半島からの渡来人が伝えた須恵器や漢字は、当時の有力豪族による支配体制の強化に役立てられた。	5世紀頃、朝鮮半島からの渡来人によってもたらされた漢字は記録手段として、須恵器や儒教は生活や統治の知恵として大和政権の社会に大きな影響を与えました。唐からの天台宗・真言宗は平安初期（遣唐使継続中）であり、宋からの禅宗は鎌倉時代の武士に好まれました。また、ヨーロッパからの活版印刷術は安土桃山時代（キリシタン大名や天正遣欧少年使節などによる）の伝来であり、鎖国前に既に導入されていました。
問8	答え 1 バテレン追放令	九州を平定した豊臣秀吉は、長崎が教会領となり要塞化している実態や、日本人が奴隷として海外に売られている現状を把握し、キリスト教の拡大が天下統一の妨げになると判断しました。これにより、宣教師（バテレン）に対して20日以内の国外退去を命じましたが、この時点では南蛮貿易そのものは継続が認められていました。